



県病医療ニュース

〒870-8511 大分市豊饒二丁目8番1号 TEL097-546-7111(代表) 内線7712:県病ニュース係



*当ニュースへのご意見・ご感想は県病ウェブサイトをご利用ください。

大分県立病院ウェブサイトはこちら

形成外科

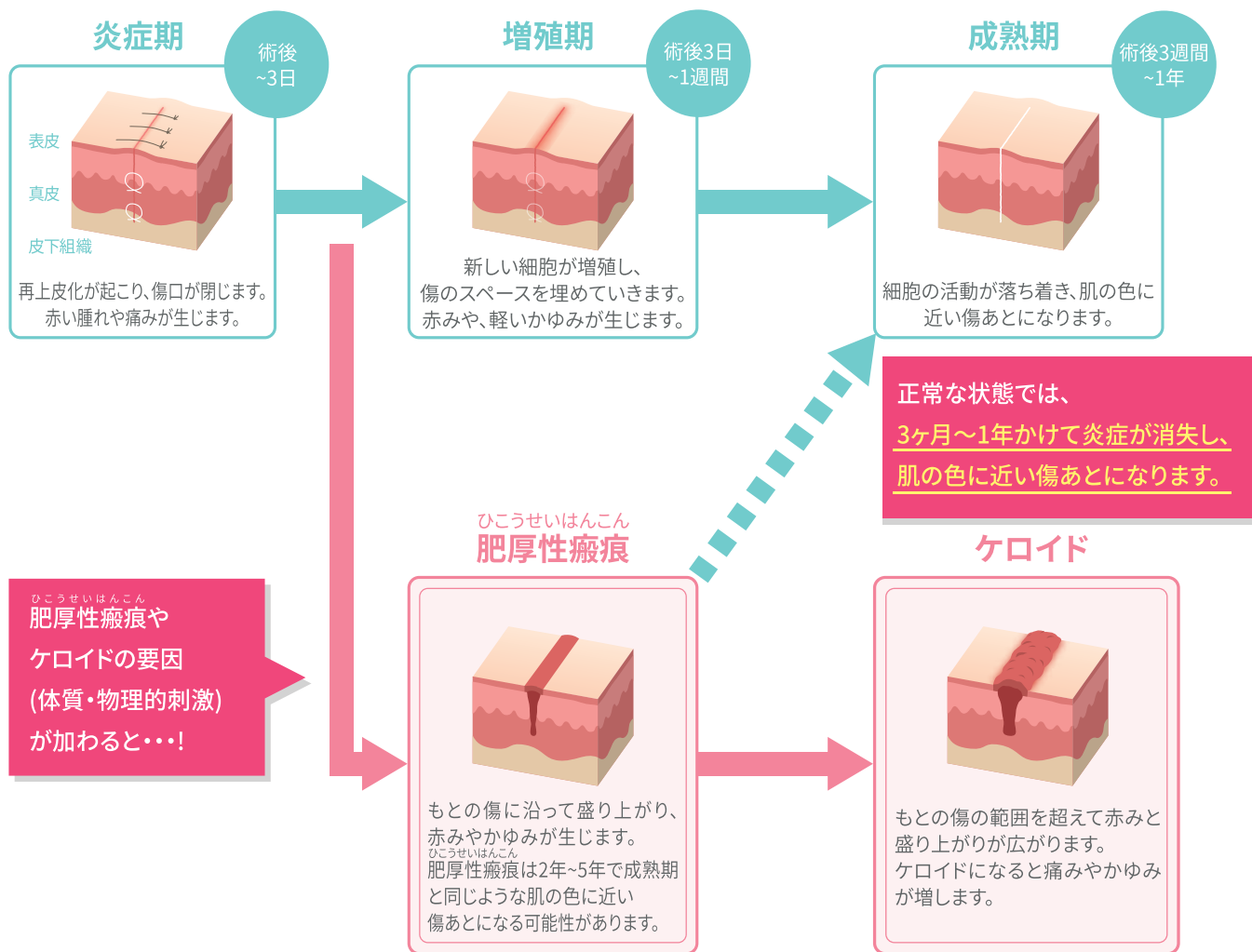
ケロイドと肥厚性癬痕のお話

ケガや手術等で縫合した傷は、7日間程度でふさがりますが、皮膚の下では炎症が持続しています。この過程でケロイドや肥厚性癬痕になる要因が加わると、傷跡が盛り上がってくる場合があります。これをケロイドまたは肥厚性癬痕といいます。

手術の傷が治る過程

▶手術の傷は炎症期・増殖期・成熟期を経て治っていきます。

傷口が閉じ、治ったように見えますが、皮膚の下では炎症が続いています。この炎症が治まるまで傷あとのケアをすることが大切です。



傷が治る過程において肥厚性癬痕やケロイドになる要因が加わると炎症が継続してしまい、赤く盛り上がった目立つ傷あとになる可能性があります。

資料・イラスト提供:ニチバン株式会社

ケロイドとは、...

もともとの傷跡の範囲を超えて隆起増大し、痛みかゆみを伴うもの

肥厚性瘢痕とは、...

傷跡の範囲を超えずに隆起するもの

〈ケロイド・肥厚性瘢痕の原因・要因〉

・体質 ・女性ホルモン ・高血圧 ・物理的刺激 等

〈ケロイド・肥厚性瘢痕の予防〉

・テープ圧迫保護 ・内服薬(トラニラスト)

体質やホルモンは予防が困難ですが、物理的な刺激はテープで保護することにより予防が可能です。剥離刺激(はがすときの刺激)が少なく、伸びないテープを使用します。

成熟期に至るまで、3ヶ月～1年程度保護を継続します。

体質がある方には、内服薬を併用して予防することもあります。

〈ケロイド・肥厚性瘢痕の治療〉

- ①副腎皮質ホルモン(ステロイド)・・・塗り薬、貼り薬、注射薬があり、この順に治療効果はあがります。
- ②手術+放射線照射・・・手術のみでは再発する可能性が高いですが、術後に少量の放射線照射を組み合わせることで再発率を下げるすることができます。
- ③レーザー治療・・・赤みを抑えることを目的として照射することがあります。

※ケロイド・肥厚性瘢痕の治療は多岐にわたり、難治であることも多いです。

個々のケロイド・肥厚性瘢痕の状態と患者様の希望に応じて治療を選択しています。

大分県立病院形成外科では、レーザー治療以外の治療を行うことができます。

(形成外科 部長 加藤 愛子)



看護師ほか医療スタッフの
臨時職員を募集しています。
詳しくはこちら